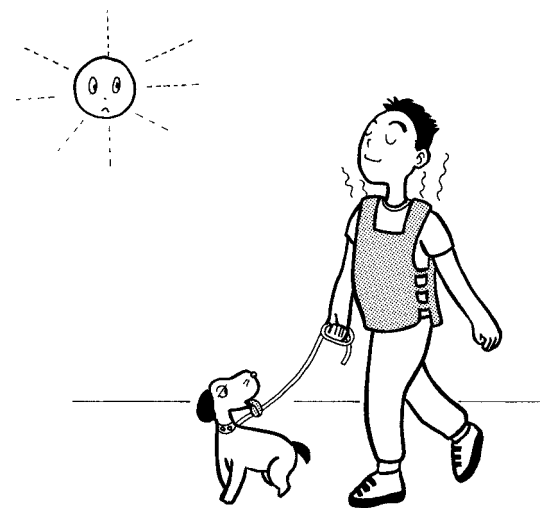


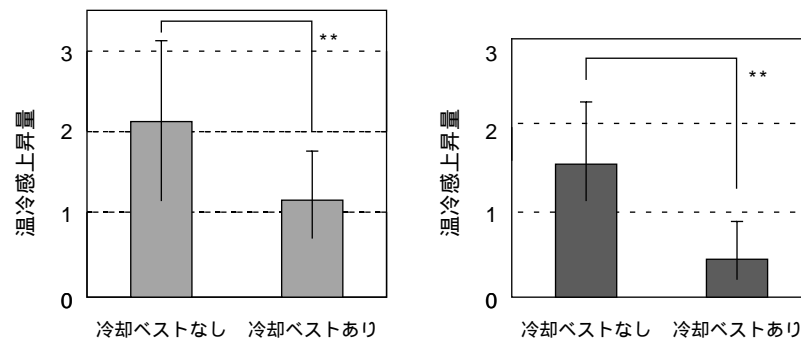
## 冷却衣服着用時の局所不快感に関する研究

研究代表者 お茶の水女子大学 吉見 直枝  
 解説 中島 利誠

冷却ベストを用いた実験で、局所冷却の着用不快感へ及ぼす影響を指摘した研究で、不快感が局所間の温度差に起因するのではなく、心理的な温冷感の差に基づくものであると指摘してあるところが、非常に興味深いです。本研究で述べている冷却衣服の冷却量の評価法も一応納得できるものです。また、被験者6名の結果だけで、熱的受容率と呼称するのは少し抵抗を感じますが、これは、データの数よりも発想を重んじたものと解釈すべきでしょう。さらに、足の皮膚温の上昇傾向についても、筆者なりの解釈があればもっと良かったです。なお、実験的に衣服の人体側の平均表面温度が16.8であったことが指摘されていますが、どのように測定したかに興味が持たれます。このように本研究は荒削り的な表現ではありますが、局所冷却の評価を知る上で有意義な研究です。



局所冷却の不快感は局所間の温度差ではなく、心理的な温冷感の差にもとづく。



作用温度25度の部屋から33度の部屋に入室した時の感覚量の上昇  
 (入室60分後のデータ、被験者6名 \*\*p < .01)

高温環境下における冷却衣服の着用は、全身温冷感、発汗感覚の上昇を抑制し、快不快感、熱的受容度において心理的效果があることがわかった。